

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千種 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 水野民也

No.27 (1982~1983)

MANKIND IS ONE-
Build Bridges of Friendship
Throughout the World

人類はひとつ
世界中に友情の橋をかけよう
1982~83年度RI会長 向笠広次

第27回例会 昭和58年2月22日(火)晴

◇ “我等の生業”

◇ 出席報告

会員 48名 出席 40名
出席率 83.33%

◇ 前回 2月15日 (修正出席率) 97.92%

make up

秋山君(2/18北), 深見君(2/16南), 林君(2/16名北), 樋田君(2/11 I. G. F.), 加藤(大)君(2/11 I. G. F.), 加藤(保)君(2/9和合), 河合君(2/17西), 日下君(2/16和合), 松居君(2/21東), 宮尾君(2/11 I. G. F.), 新美君(2/17瑞穂), 成田君(2/16名北), 笹野君(2/19守山), 菅原君(2/16南), 杉山君(2/17瑞穂), 鈴木(猛)君(2/17瑞穂), 竹内君(2/11 I. G. F.), 谷口君(2/16南), 鶴飼君(2/19守山), 山村君(2/21東)

◇ ビジター紹介 3名

◇ 誕生日祝福

古川夫人(2/25), 新美夫人(2/28), 齊藤君(2/26)

◇ ニコボックス

河合君(会社創立40周年記念を祝して), 古川君(夫人誕生祝), 新美君(夫人誕生祝), 齊藤君(誕生祝), 樋田君(結婚記念祝)

◇ 菅原親睦活動委員長報告

現在各会員の方々の職場訪問を行っておりますが今後とも続行し、ウィークリーにも掲載する予定です。又5月に夫人・会員懇親会として京都を訪ねる予定ですので多数御参加下さい。

◇ 松居幹事報告

1. 本日例会終了後、理事会を行いますので理事・役員の方々は橋の間にお集り下さい
2. 次回例会終了後、新入会員の教育がロータリー情報委員長により行われますので前回欠席の方、それ以降に入会の方々は御出席下さい。

◇ 水野(民)会長挨拶

第27回の例会が開会出来ますことを感謝申し上げます。

先回では特に古川君からマニラ、香港のRCについて、又菅原君からは職場訪問についてのお話し、ありがとうございました。

今日は市民スポーツ振興の基本についてお話ししたいと思います。「レインボープラン」という事で諸般の事業が計画され、スポーツ、レクリエーションが市民の体育の向上になることは勿論、新しい時代のコミュニティ形式には欠くことが出来ません。

55年に市全体にわたってスポーツ意識調査をしました。その内容は、

健康である 30%
普通 56%

又、運動しなければ、と思っている人は76.8%にもほり、健康づくりには散歩、体操、ジョギング、テニス、キャッチボール、水泳と続いておりますが、実際には余暇があると、テレビ、ごろ寝、読書勉強、趣味、ショッピング、ここでようやくスポーツ、レクリエーションとなっております。このスポーツをやっている人について考えてみますと、継続中のものは、散歩、釣り、体操、キャッチボール、ゴルフ、ボーリング、水泳。これからしたいものとしては体操(美容、体力づくり)散歩に始まり、5番目が水泳、ダンス、テニスと続き、10番がゴルフ、16番目にボーリングとなっております。施設も各区一つの体育館、東西南北に体育のセンター。近い将来学校の開放は各校になる筈であり、施設としての不足は、野球、ソフトの球場、熟年の為のゲートボール、婦人のレクバレーの体育館等になっておりますが、市の体育協会も一昨年、市よりの3,000万円の基本金で充足し、民間で3,000万円の目標で進んでおります。民間の方が800万円程不足しており、Rtn各位の御協力をお願いし、ごあいさつに代えさせていただきます。

◇講演

“最近の景気雄感”

会 員 河合美雄 君

御承知のように、景気停滞の長期化のもとで米国金利の急ピッチの低下を主因に円高が進み、最近では278円のピーク時より40円近く高くなりました。一時は230円を割り公定歩合の



引下げ論が台頭してきましたが、又米国の景気が危なくなり、日銀も引き下げチャンスを探っているのが現状であります。では果して今後の景気はどうなるのか。先般行なわれた全国財務局長会議で、個人消費は物価の安定で底固いものの、全般に盛り上りに欠け、産業活動は鉄鋼など素材産業が「暗」、サービス産業、セラミックなど先端技術産業は「明」で業種、企業により明暗を分けている。そして当分の間このような足踏み状態が続くと見る向きが多いようです。

今年の日本経済にとっての重要なポイントは輸出の動向であります。我国の輸出は一貫して拡大を続け、経済成長を支える牽引力となってきました。ところが昨年度の9%の落ち込みは、まさに30年ぶりの大事件であり、この9カ月連続の前年比マイナスは、今後とも急激な立ち直りは望めません。

輸出不振の原因として、第一に輸出の回復は世界経済の回復、特に米国の景気の回復によるが、それが極めて緩慢なものと思われること。第二に世界経済そのものが縮少傾向にあり、第三に従来順調であった中近東と発展途上国向け輸出がここへ来て減少に転じたこと。更には、海外の現地在庫が高く、輸出拡大の足かせとなっている事でもあります。その他問題は多々ありますが、割愛させていただきます。只こうした中で立派な業績をあげている企業を見ますと、結論としては経営者の先見性、人材の育成並びに効率化の促進が必要ではないでしょうか。米国の金利低下が期待出来ない以上、景気回復テンポは極めて緩やかであろうけれど、在庫調整の進んできた現在、輸出増加と円高の定着が今後の景気を左右する最大の鍵だと思えます。

“抗生物質創成期”

会 員 水野民也 君

古きを語るは老人になった証拠とも言われますが、温古知新という言葉もありますので戦中戦後、私が従事したペニシリンの開発研究の経験談をお話したいと思えます。



ペニシリンについては昭和19年頃、ブエノスアイレス発特電というニュースが朝日新聞に掲載され、その内容は当時チャーチルが肺炎にかかったがそれが即日快癒した。又戦場での兵士の細菌による感染が非常に減少したということであり、日本の軍当局が非常に驚き、ペニシリンの研究開発の命令を下し、我々も軍医学校の下請作業をする事になりました。戦時中ということもありペニシリンという敵国語を避け、青カビからの物質ということから「碧素」と名付けて研究しておりました。戦時中の物資不足の折から、ブドウ糖、肉汁等も品薄であり研究開発には非常に苦勞致しました。今から思うと非常に原始的方法により製造されたペニシリンを滅菌したうえ直接注射したり、傷口に塗布したりしましたが、それが非常によく効き皆様から大変感謝されました。特に山梨の空襲の時には、ペニシリンが大活躍して当時大変話題になったことを覚えております。

最近の情報によりますと、ペニシリンの生産も、日本から韓国・台湾に移り、現在では南方諸国へと生産が移ったとともに、ペニシリン外の抗生物質への転換も進み、我々が戦中戦後、研究開発に苦勞した頃のことを思い出して感無量の思いが致します。

— 2月度理事会議題 —

1. 社会奉仕委員会報告の件
2. 新入会員候補者の件
3. 国際大会（トロント）委員会報告の件
4. 次年度理事役員の理事会出席の件
5. 出席率の件
6. 市内14RC幹事会報告の件

◇例会変更のお知らせ

名北RC	3月2日（水）	合同例会及びF SMのため
北RC	3月4日（金）	〃
東RC	3月14日（月）	F SMのため
名東RC	3月15日（火）	〃
港RC	3月18日（金）	夜間例会のため

◇次回例会（3月1日）

卓話“歯科の材料”

会 員 三輪 康 君

◇次々回例会（3月8日）

卓話“建設業について”

会 員 水野賀績 君

卓話“遺言の話”

会 員 西川豊長 君